

## あ と が き

阿波学会紀要第56号からの新たな試みとして、巻末資料CD版を付けることができた。事務局はじめ、関係各位の惜しみないご支援と協力に感謝したい。

CD版に関しては、昨年度の紀要あとがきで、「阿波学会紀要のあり方に関して、膨大なデータ（資料・標本のリスト等）は、資料集として電子ファイルに収め、巻末に添付し、本文では、読者に、調査の目的や手法、ならびに成果とその意義がわかるように記述するといった方法など、皆様の意見を踏まえて検討を詰めていきたい。県内学術情報のデータベースとして、事実記載を尊重しながらも、紀要が単なる定式化した報告書に留まることは避けたいと、常に編集委員会は考えている。執筆者各位も同様であろう。相互研鑽を重ねることで、精度を維持しながら、より広く、多くの読者に向けて、記述する内容と方法を改善してゆきたい。」とお伝えした。この事柄に関して、アンケート結果をもとに、CDに収める資料データのあり方を編集委員会で検討し、今回からCD版の活用を開始した次第である。

巻末CD版添付の趣旨は、「紙媒体の本文を読みやすく、またCDを、図表の解像度向上、色彩、音、場合によって動きの情報伝達手段として活用する」ことにあります。今年度の紀要では、早速に、祭りの動画情報や絵地図の精細情報などを収めることができた。CD版の活用は、保存媒体の一部を紙から部分的にCDの電子ファイルへ移行することを可能にすることでもあるが、紙媒体の本文よりも巻末添付のCDに収めた方がよいと執筆者が判断した情報を、電子ファイルとして収録するものであり、あくまで論文の一部である。今後は読者の反響をもとに、CD版が、情報伝達手段として、多面的に活用されることを期待したい。

さて、テクニカルな改善に関してはこの程度に留め、本年度の総合学術調査をふり返ってみると、調査の取組や、成果発表会の内容が、たびたび、社会に大きく取り上げられた。結団式後の調査の取材に始まり、新聞の一面トップ、地元での発表会成果報告記事、そして社説と3日連載の話題もあった。本号は、それらの社会的にも大きな話題となった諸課題に関する調査報告の集大成でもある。そういった観点から、本号に掲載の調査分析、成果報告や問題提起、あるいは提言等は、多方面から注目されているであろう。同時に、本号での成果報告に至った諸課題の多くは、地元からの調査依頼項目でもある。是非、今後の阿波市の特色ある自然環境や歴史・文化遺産の将来へ向けた持続可能な活用のために、さらには地域から世界へと発信する文化・学術の発展のために、生かされることを祈念したい。

紀要は学会活動と当該総合学術調査の文書による公的な報告であり、編集委員会と事務局は、常にその自覚を持って、社会と学会双方向に対し、正確・公平かつ客観的な編集内容の公開を目指している。成果の公表に向けた執筆班の熱意と努力を真摯に反映させると同時に、このような日々年々の取組が56号の発刊として今日に継承し得たことは、努々忘れることはできない。学会の将来の計、今後の地域社会への貢献は、このような積年の取組を自覚した唯今の実践と切磋琢磨があつてこそ、はじめて生まれ得ることであろう。今一度、胸に刻んでおきたい。

既にご存じのように、紀要報告書で公開されている成果の裏付けとなる基礎データの収集は、単に当年度の総合学術調査期間に留まらず、背景には、参加学会や班員の不断の課題探求がある。阿波学会の地域貢献は、学術団体の調査成果と事務局を担う図書館との協働の上に成り立っていることを読者の皆様にはこの場を借りてご披露したい。引き続き、関係機関・団体ならびに会員諸氏の連携と協力をお願いする次第です。最後になりましたが、紀要56号発行に支援いただいた関係各位には、紙面をお借りして厚く御礼申し上げますと共に、益々のご発展をお祈りします。

(石田 啓 祐)

阿波学会紀要編集委員会

委員長 石田 啓祐

副委員長 中野 真弘 川添 和義

委員 岡山真知子

小川 誠 喜多 順三 近藤 孝造

仙波 光明 西田 素康

根津 寿夫

羽山 久男 堀江 秀茂 萬宮千鶴子

山本 裕史 和田 賢次

## ＜編集後提出稿＞

表記の原稿は，阿波学会紀要編集委員会による査読・編集作業完了後の2010年4月以降に，初稿の全文が提出されたものである。

この提出は，評議員会から調査班への最終勧告・要請によるものであり，阿波学会紀要原稿作成・提出規定に基づく編集委員会の手続きを経たものではない。

(阿波学会紀要原稿作成・提出規定より抜粋)

### 1) 初稿の提出期限と遅延料について

#### (1) 初稿の提出期限について

初稿の提出期限は1月20日とし，3月以降は，理由を問わず初稿の提出を受け付けない。

### 2) 完成稿の提出について

査読後，完成稿は2週間以内に提出する。理由を問わず4月以降の提出は受け付けない。